



映画『道草キッチン』は、徳島県吉野川市市制20周年および板野町町制70周年を記念して、2024年に共同制作された作品です。企画の始動から準備に至るまで、白羽監督が取材を重ね、2024年春から夏にかけてロケハンを実施。同年10月4日から22日にかけてロケ・撮影が行われました。地域の皆さまのご協力により撮影は無事終了し、2025年秋に劇場公開を迎えることができました。

劇中に登場する人物やストーリーの背景には、地域の方々や実際の場所をモデルにした場面が数多く盛り込まれており、吉野川市・板野町ならではの風景や人の温かさが本作に息づいています。ぜひ、本紙限定のロケ地マップや撮影のこぼれ話とともに、映画『道草キッチン』をお楽しみください！

吉野川市・板野町の自然豊かな場所



吉野川市

鴨島町・川島町・山川町・美郷村が一つになって誕生した吉野川市は、徳島県北部のほぼ中央、吉野川の南岸に広がるまちです。北には吉野川を挟んで阿波市があり、5本の橋と2本の沈下橋で結ばれているため、人や車の行き来がとても盛んです。吉野川市から徳島市までは約20kmとアクセスも良く、市全体が徳島都市圏の一翼を担っています。国の天然記念物に指定されている「美郷のホテルおよびその発生地」や「龍理のオニツツジ群落」など地域資源に恵まれた魅力的な観光スポットがあり、また、全国初の梅酒特区で知られる美郷地区の「梅酒」は代表的な特産品として知られます。2020年には、JR鴨島駅周辺に市民の文化交流や様々なイベントの開催場所として利用される多目的施設「吉野川市民プラザ」が誕生し、地域のコミュニティ拠点として多くの人々に親しまれています。そんな吉野川市は、映画のロケ地としても魅力を発揮しています。自然豊かな風景や、人々の温かさにぜひ触れてみてください。

水神の滝

立カズにとって大切な場所、それが、吉野川市川島町にある上桜公園の南東に広がる山裾の滝です。滝の上方には二の滝、三の滝が連なり、豊かな自然の景観を楽しめます。季節が移ろうごとに、野生のツツジやツバキが吹き誇り、訪れる人の目を惹きつけてくれます。

大日寺

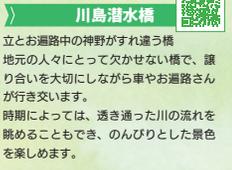
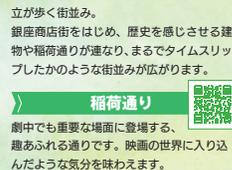
四国道路の歴史が息づく町。比較的小さな町の中に、なんと四国八十八箇所霊場の寺院が3つもあります。第三番札所「金泉寺」、第四番札所「大日寺」、そして第五番札所「地藏寺」。いずれも約1200年の歴史を誇り、長い時を超えて巡礼者を迎えてきました。

道の駅いたの

登場人物たちや板野町の食材が集まる場所。立が会いのひとときを過ごすのは、季節ごとに表情を変える板野町と徳島の特産物が揃う直売所です。新鮮な野菜や果物、地域の味覚に耽れながら、地元の人々との温かい交流も楽しめます。

レンコン畑

立がお手伝いするレンコン畑。映画のレシビには欠かせないレンコンは、ロケ地でもある平瀬園さんの畑で収穫されています。広がる畑の風景と土の香りが、訪れる人へのどかな農村の魅力を伝えています。



JR鴨島駅

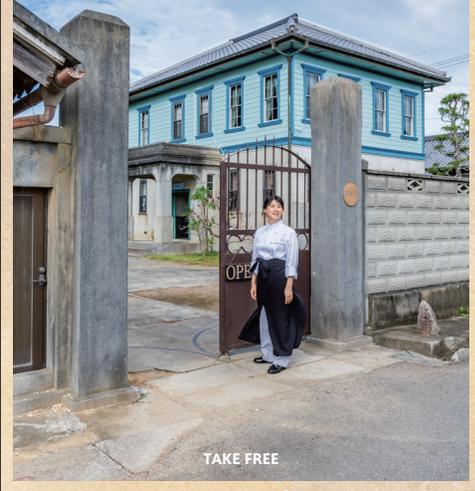


鳥新(中町通り)



映画 道草キッチン

ロケ地マップ



TAKE FREE



更年期症状に悩む50歳独身の桂木さん。

この先どうして生きていこうから。

道草キッチン

中江 有里

金井 浩人 村上 穂乃佳 本間 淳志 ファム・ティ・フォン・タオ
荒木 知佳 芝博文 仁科 貴
大塚 まさじ / 今 陽子

エンディング曲

「月の光」演奏：石井 琢吾

脚本：白羽 弥仁・加 愛

監督：白羽 弥仁 (映画「フォレスト」撮影の監督)

第3回
ナショナルフィルムフェスティバル
正式招待作品



撮影のこぼれ話

映画「道草キッチン」には決して欠かせない地域の方々との出逢いは、劇中に生きる立たちと同じように、僕らにとっても大切な出逢いでした。本誌ではご協力いただいた地域の皆様のお声を伺いました。ぜひお楽しみください！

HOSTEL OE

劇中に登場するホステル。映画の物語に深く関わる場所で、単なるロケ地にとどまらず、登場人物や物語のモデルにもなっています。

「白羽監督やプロデューサーの向田さんが何度も訪れたように、HOSTEL OEには県外や海外からも多くの人々が集まります。2階のコワーキングスペースでは、お酒席さんや海外からの訪問者が語らひ、時には地元の子どもたちが勉強する場としても自然と交流が生まれます。異文化を優しく受け入れるこの場所を通じて、阿波踊りや地域イベントなども展開されていくことが期待されています」まさに、映画のタイトルのように「逢草」のひとつを堪能できるスポットです。

また、ベトナム出身のご夫人を通じて、訪れる人に自国の文化や食事を紹介できることも喜びのひとつ。「日本に来て働くベトナムの方々や国際結婚の増加に連れ、吉野川市でこれまでベトナムランタン祭なども開催してきました」映画をきっかけに、地域の人々と海外からの訪問者がさらに交流し、国際的なつながりを深めていく場として、HOSTEL OEはこれからも大切にされていきます。

〒776-0010 徳島県吉野川市鴨島町鴨島字神島 485番地4



嵐川/和歌山県和歌山市出身、元吉野川市地域おこし協力隊。映画を通して特長島のブランディングやプロモーションに取り組み川川企画代表。鴨島駅前の雑居施設「HOSTEL OE」を管理・運営。



鳥新(中町通り)

脚本取材時、白羽監督が初めて萬川さんご家様を訪れたお店です。店の味と温かい雰囲気は、映画制作の大きなきっかけとなりました。

昔ながらの店内で女将さんが焼き場に立ち、旦那さんの思いを受け継いでいます。ロク交流時は一度断られました。が、当時高校3年生のお孫さんの後援で撮影が実現。出演者への焼き方指導も行った。無事撮影を終えました。撮影から1年後、女将さんは「いつか、私がおらんなくても映画の中でお店が残ってくれる。カチカに残る。それもいい、と思った」と微笑みながら、今日も変わらず焼き鳥を焼いています。



〒776-0010 徳島県吉野川市鴨島町鴨島 454番地19

長楽荘(旧富本家住宅)

これから新たな形で活躍する洋館は、立の人生の再出発と重要な存在として、私たちに温かいご縁をつないでくれました。

水色の外観が目目を引く洋館は、改装中のタイミングでロケ地として相談させていただきました。持ち主の先生は「この洋館をのこしたい」と新たな人生プランを描かれており、何度も相談を重ねた末、数か月後に貴重なロケーションでの撮影を実現。その後の試写上映後に再会した際には、「私が気にお手製のフランクケーキが愛し入れられ、助監督の淹れたベトナムコーヒーとともに楽しめました」「住めば住むほどこの地域の魅力を感じています。映画に美しく映った山川町の風景で、また地元が好きになりました。」と語っています。



※築て築た山川町筋の裏家業から富本市郎氏が分家し、大正2年に特定郵便局の局舎を建て同長となり、昭和6年に西洋風の洋館、同8年に真庭敷(長楽荘)を建てた。令和7年、日本遺産認定の「藍のふるさと阿波-日本中を染めた藍の舟を紡ぐて-」を構成する文化財に追加認定。
〒779-3402 吉野川市山川町 西久保1 番地1

かもじま阿波おどり

レトロな雰囲気が残る商店街で溢れる鴨島ならではの心地よい熱気を体感下さい！

鴨島駅前中央通り商店街では地元有志による「一夜だけのかもじま阿波おどり」が開催されており、地元「舞踊編連」や「もっこ連」をはじめ、有名者も参加し、まさに熱気と笑顔を届けています。2024年には、映画の劇中用に実際の阿波おどりの風景を撮影しました。その年の10月には、実行委員や地元の方々への協力、映画の撮影に170名以上のエキストラと共に撮影を実施。本番ながらの熱気も、映画の中で思っています。



〒779-0107 徳島県板野郡板野町吉城新町東9

道の駅のたの

板野の食材をぜひお楽しみ下さい！

「活き活きと躍らした田園都市」の実現を目指し、令和3年4月1日に四国で88カ所目の道の駅として誕生した、道の駅です。鴨島では外観にキッチンカーをセットし、ブルーベリーやすだちのオリジナルジュースを考案。店内も季節に合わせたポップで彩られ、ポップ作成は店員の平岡さんが担当しました。劇中に登場するちびなすや半田蒸籠などの商品も道の駅のものを使用し、カスの風呂敷に貼る値段シールも作成していただくなど、作品の世界観を支えています。



〒779-0102 徳島県板野郡板野町川中樋中39番地5

古民家工房 kotokoto

季節ごとのお手製パンが作れる古民家の教室です。教室を開く谷さんに、当時の様子や向うこともできました。築100年の古民家は映画の世界観にぴったりの温かい空間で、数日間撮影が進められました。

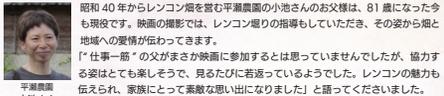
「最初は驚きましたが、協力が本当に良かったです」と谷さん。若いスタッフが一生懸命に動く現場を見て、徳島の「お接待文化」も手伝い、自然と応援したくなったそうです。早朝には谷さんお手製のフランクケーキが愛し入れられ、助監督の淹れたベトナムコーヒーとともに楽しめました。「住めば住むほどこの地域の魅力を感じています。映画に美しく映った山川町の風景で、また地元が好きになりました。」と語っています。



〒779-3407 徳島県吉野川市山川町季平160番地
※17教室は少人数制・要予約

らーんず ita 農平瀬園圃 & 落合ブルーベリー園

5人の女性農家が集まり、おいしい魅力をお届けする「らーんず ita 農」。映画「道草キッチン」には、板野町の食材を使った徳島の郷土料理が登場します。脚本には、地元の実生者の声を取り入れるため、私たちは「らーんず ita 農」の皆さんと出逢いました。皆さんの活動は、劇中に登場する女性農家のモデルとなっています。



平瀬園圃 小池さん

昭和40年からレンコン畑を営む平瀬園圃の皆さんのお父様は、81歳になっても現役です。映画撮影では、レンコン畑の指導をしていただき、その姿が畑と地へへの愛情が伝わってきました。

「仕事一筋」の父がまさか映画に参加するとは思っていませんでしたが、協力する姿はとても楽しそうで、見るたびに若返っているようにです。レンコンの魅力も伝えられ、家族にとって素敵な思い出になりました」と語っていただきました。

「私たちの活動は“農業が作る風景”を意識しているため、映画の中とリンクして欲しいな」と話してくださいました。落合ブルーベリー園の石川さん。自然の景色やお酒席の姿、板野町のキャロットケーキを通して、「やっぱり徳島らしいところだな」と改めて感じました。

家族が暮らす母屋をロケ地としてご協力いただき、その優しい空気感がそのまますべての撮影に思っています。

平瀬園圃 小池さん
〒779-0107 徳島県板野郡板野町吉城新町東9

稲荷通り

懐かしい味を振り返る空間

鴨島駅前商店街に面した道を歩くと鳥居くぐると、昭和レトロな空間が広がります。その中にあるこ〜ムラマキそばズギン>>は、地元の子どもも常連者で愛されるお店です。撮影当日には吉野川市在住のベトナム人や地元の子どもたちも参加し、印象的なシーンが生まれました。



〒779-3407 吉野川市鴨島町鴨島字神島 495番地1 裏鴨島稲荷通り

ビジネスホテルロードサイド

ロクを支えた強い味方

宿泊だけでなく、劇中に登場する美術品や料理の仕込みの多くがロードサイドで行われ、撮影現場から戻るとほっと安心できる場所となっています。支配人のお母さんが作る朝食は絶品で、身近で応援してくださったお母さんは「普段では経験しない映画の世界に協力でき、とても楽しい時間でした。制作の裏側を見ていたので、映画を観た時は興奮しました」と語っていただきました。



プロデューサーと記念写真

〒776-0003 徳島県吉野川市鴨島町内原160番地3